

ふなかわら

第 25 号

2013 年 6 月 15 日発行
編集・発行 石井甲一

〒 278-8510
千葉県野田市山崎 2641
東京理科大学薬学部内

印刷・菅原印刷(株)



CONTENTS

1. 副会長挨拶(安藤 秀一).....	2	10. 同窓会だより.....	19
2. 第17代薬学部長挨拶(牧野 公子).....	3	平成25年度薬学部地区交流会のご案内	19
3. 平成25年度同窓会総会および講演会のご案内	3	平成24年度地区交流会報告	20
4. 平成25年度「実践社会薬学」のご案内	4	2期同期会報告.....	20
5. 薬学講座のご案内.....	6	3期同期会報告.....	21
6. トピック.....	8	8期同期会報告.....	22
・日本薬剤師会のJPALSについて(上村 直樹)...	8	9期同期会報告.....	22
・一般用医薬品のネット販売を巡る		12期同期会報告	23
動向について (小林 寧)...	9	14期同期会報告	24
7. 卒業生報告.....	11	15期同期会報告	24
近況報告(黒崎 浩己).....	11	16期同期会報告	25
(野村 香織).....	12	18期同期会報告	26
8. 退任の挨拶(小林 進).....	13	放射関係研究室 第1回合同同窓会.....	26
(石井 賢二).....	13	星野修先生喜寿のお祝い会のご報告.....	27
(太田 隆文).....	14	剣道部50周年記念及び斉藤泰二師範の米寿を祝う会の報告	28
(松岡 隆).....	14	11. 平成24年度同窓会総会について	29
9. 新任の挨拶(花輪 剛久).....	15	12. 会費納入のお願いおよび平成24年度会費納入状況	32
(後藤 了).....	15	13. 会費・寄付納入者一覧.....	33
(秋本 和憲).....	16	14. 終身会員一覧.....	33
(高澤 涼子).....	16	15. 訃報.....	36
(稲見 圭子).....	17	16. 氏名・住所・異動等変更届.....	37
(磯濱洋一郎).....	17	17. 同窓会幹事一覧.....	39
(佐藤 嗣道).....	18	18. 編集後記.....	39
(吉澤 一巳).....	18		

副会長挨拶



東京理科大学 薬学部 同窓会副会長 安藤 秀一

今回で2度目になるふなかわらでの副会長挨拶です。

私は2006年に、石井さん（現会長）からの推薦で、副会長の任につきました。そして、2009年のふなかわらで、私の薬学部同窓会での副会長としての担当業務の紹介をいたしました。当時（今も変わっておりません）の私の担当業務内容の詳細は、お手数ですが、東京理科大薬学部同窓会のホームページ（<http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>）にアクセスしていただき、掲載されている過去のふなかわら（21号）から、確認していただけるととてもうれしく思います。それから、ホームページをざっとながめていただき、ご意見などを事務局（jimu@ridaiyakudo.gr.jp）に寄せていただけると、とってもとってもうれしいです。と申しますのも、薬学部同窓会ホームページの作成目的が、同窓会の皆様とコミュニケーションをとるための一助となることであり、その引き金となるのが、皆様からのご意見だからです。しかしながら、若い方々はFacebook等があるからいいとおっしゃるかもしれません。それはそれでいいのですが、薬学部同窓会は、薬学部の同窓というカテゴリで約50年という年齢幅のコミュニケーションです。Facebook等とは違った楽しさと意味がここにはあると私は信じております。なお、このホームページは副会長の上村さんと事務局の努力にて運営しております。皆様の暖かい気持ちを支えですのでどうぞよろしくお願ひします。また、コンピューターはどうも？という諸先輩方のために、このふなかわらを通じて、情報を発信しております。ふなかわらは、その内容は幹事会で議論して、原稿を集めて発行にたどり着きます。幹事会では、ふなかわらを発行すると、すぐ次回のふなかわら発行に向けて議論を開始するという次第で、がんばっております。また、幹事会ではふなかわらをよりよい情報発信の礎となるように、現状に満足することなく、他大学の同窓会誌を収集してその内容を分析して、うまく取り入れることができる企画はないかなどの議論もしております。いろいろと努力はしておりますが、ふなかわらの内容に関する注文も承ります。

なお、同窓会事務局へはFAX（04-7121-4531）でもご連絡いただけますので、ご活用よろしくお願ひします。ふなかわらの編集は副会長の武尾さんが中心となって対応して下さっております。そして、既述いたしました幹事会は、薬学部の同窓の各卒業年度の幹事の皆様に参加していただき、3ヶ月毎に同窓会に関する種々の議論を行っております。石井会長にはこの幹事会に常に参加

していただき、議論のとりまとめをしていただいております。そして、毎回、会議後に石井会長の呼びかけで、お酒の入った懇談会が開催されます（参加者の自腹です）。この懇談会で、世代を超えたコミュニケーションが生まれます。私自身、諸先輩方との会話の中で、いろいろと勉強させていただくことができ、とても有意義だと常に感じております。特に、製薬企業に勤めている私にとって、薬剤師の先輩の皆さんのお考えや、役所に勤務されているかたがたのお考えなどは、普段の業務では得ることができない非常に貴重な情報でして、すっかり業務に応用させていただいたりしています（情報管理レベルの常識は心得ております）。なお、幹事会へは、幹事として登録いただいでなくても、出席できますので、開催日や開催場所をホームページで確認して、ふらっと参加していただけますと幸甚です。と、ここまで執筆して気がきました。皆さんが、ふらっと参加していただくきっかけとなるのが、幹事会の議事録で参加者と議案内容を確認するということでした。現在、幹事会議事録はホームページに掲載していません。今後、幹事会のみなさんと話し合っておきます。本原稿がお手元に届くまでに対応できているといいですし、この原稿を読まれて、ホームページにアクセスして、掲載されてなかったら、安藤の意見が没になったとご理解ください。それから、薬学部同窓会として独特の活動である実践社会薬学の講座に触れさせていただきます。この講座は、同窓生が在校生に授業をするという構造です。皆さんにご協力いただき、皆様のお知恵を、後輩に伝授していただくと幸甚です。この講座では、副会長の小高さんと上村さんに授業取り仕切りを担当していただいております。薬学部が6年生になったことで、この講座のあり方についても幹事会で議論がなされております。変化の時代ですので、いろいろと変わることが大切だと感じております。

最後に、とりとめのない文体とだらだら感で、薬学部同窓会や幹事会についての紹介をさせていただき、副会長挨拶といたしました。私は、面白いことが好きで、面倒くさいことが嫌いな普通のおじさんです。薬学部同窓会での活動は、正直言って面倒くさいこともあります。結構おもしろいことも多いので、続けております。皆様も一緒に活動してみませんか？まずは、幹事会をのぞきにきてください。よろしくお願ひします。

第17代薬学部長挨拶

牧野 公子



同窓生の皆さん、昨年10月に田沼靖一先生から引き継いで、薬学部長に就任しました。よろしく申し上げます。私は昭和50年東京理科大学薬学部薬学科に入学し、昭和54年同大学院薬学研究科に進学し、昭和56年に修了しました。その後、小石研究室の助手、近藤研究室の助手を経て、長期在外研究員として昭和63年に米国ユタ大学キム教授の研究室にポスドクとして派遣されました。帰国しましたら、元号が昭和から平成に変わっていました。その後も本学薬学部に勤務して、38年間も本学薬学部にお世話になっております。

同窓会会報の名「ふなかわら」にあるように、薬学部は、昔、新宿区船河原町にありました。この会報を読まれているほとんどの皆さんが、船河原で学んだはずです。そして、薬学部が野田に移転して10年が経過しました。今年3月には6年制の薬学科の2期生、生命創薬科学科の4期生が卒業しました。とても大きな変化があった10年間でした。誰も経験した事なかった6年制教育は、走りながら考えて進めてまいりました。良く出来上がったと思ったのと同時に、事前薬学実習、病院実習や薬局実習等でお世話になりました同窓の方々へ御礼申し上げます。と思います。

今年4月に理科大は葛飾キャンパスを開校しました。常磐線の金町駅から徒歩10分程度で、電車の中からも見えます。こちらには工学部、基礎工学部、理学部の一部が移転しました。液体窒素の供給が順調でない等の未完成的な部分があると聞いています。10年前に薬学部が野田に移転した時を思い出します。

薬学部で学ぶ薬学とは、自然科学の一分野というよりも、あくまで、薬の学問です。薬学科の学生だけでなく、生命創薬科学科の学生も医療に深い関心を持つべきです。われわれ薬学部教員自身もまた自然科学の教育者・研究者である前に、薬の学問に携わる医療人としての自覚をもつべきと考えます。

毎年、薬学部同窓会から講師を派遣して頂いて実践社会薬学の講義をお願いしております。また、卒業証書授与の時に薬学部同窓会から卒業生にスパークルを頂戴しますし、謝恩会でも会長からご祝辞を賜っております。薬学部は、昭和35年に創立以来、50年以上経った訳ですが、いつもご指導頂いております諸先輩方に御礼申し上げますとともに、今後とも同窓会から薬学部への更なるご支援をお願い申し上げます。

平成25年度

東京理科大学薬学部同窓会総会および講演会のご案内

本年度の同窓会総会および講演会を下記にて開催致します。万障お繰り合わせの上、ご出席賜りたくご案内申し上げます。

■日 時：平成25年7月27日（土）14：00～

■場 所：インテリジェントロビー・ルコ（軽子坂MNビル）
東京都新宿区揚場町2-1 軽子坂MNビル1F 電話：03-3266-9311

●同窓会総会、講演会および懇親会のすべてを上記会場で開催致します。

■次 第：14：00～15：00 同窓会総会
15：00～17：00 特別講演会

「在宅医療が日本を変える」～キュアからケアへのパラダイムチェンジ～

医療法人ナカノ会理事長

鹿児島大学医学部臨床教授

全国在宅療養支援診療所連絡会IT・コミュニケーション局長

中野 一司 先生 (18期)

(財)日本薬剤師研修センター認定 (1単位)

17：30～19：30 懇親会

■会 費：懇親会 5,000円

平成25年度「実践社会薬学」の開講

今年度のスケジュールは4月13日（土）よりスタートし毎週土曜日の午後、全7日間で開講します。1日2コマのハードなスケジュールですが、毎回熱気溢れる講義が行われ、最終日（6／8）は情報交換会が予定されています。講師は薬学部卒業生に御協力いただき、行政、薬剤師会、薬局、病院、企業の分野において活躍されて

いる先輩方から在學生に講義していただきます。諸先輩の社会での経験・生きた情報は、現役の學生にとってなかなか聞くことのできない貴重なものです。もちろん、同窓生であればどなたでも講義を聴くことができますので、ご出席お待ちしております。

平成25年度「実践社会薬学」講義予定表

日程	時間	講師名	所属	期	タイトル	内容	
導入	13:10～13:20	上村 直樹	薬学部同窓会 副会長				
行政 薬剤師会	4月13日	13:20～14:30	佐々木正大	厚生労働省医薬食品局審査管理課化学物質安全対策室	32	厚生労働省に勤める薬学部卒業生って何しているの？	薬学部を卒業して霞ヶ関に勤めるとどのような仕事をするのか、講師の実体験、テレビ、新聞などの身近な話題、皆さんが聞いたことのある話題からその内容をわかりやすく解説します。
			休 憩				
		14:40～15:25	石田 真理	医薬品医療機器総合機構 信頼性保証部	43	医薬品医療機器総合機構（PMDA）に勤める薬学部卒業生って何しているの？	PMDAと厚生労働省の関係やPMDAではどのような仕事をするのか等、日頃の業務の事例を紹介しながら、わかりやすくお話しします。
		15:25～16:20	松本 洋典	独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 品質管理部（前厚生労働省医薬食品局監視指導・麻薬対策課）	43	独立行政法人職員から見た厚生労働省のお仕事（仮題）	PMDAから、厚生労働省に異動を命ぜられて、はや2年。独立行政法人ではできないいろいろなことを経験しましたので、その内容をわかりやすくお話しします。
行政 薬剤師会 薬局	4月20日	13:10～13:55	谷口紗弥子	東京都健康安全研究センター 企画調整部健康危機管理情報課 食品医薬品情報係	39	東京都庁に勤める薬学部卒業生って何しているの？（仮題）	薬学部を卒業して東京都に勤めるとどのような仕事をするのか、日頃の業務の事例を紹介し、わかりやすく解説します。
		13:55～14:40	向井 呈一	東京都薬剤師会薬事情報課（前日本薬剤師会薬事情報センター部長）	11	薬剤師会の仕事 -薬剤師を取り巻く現状とともに-	医療の現場で働く薬剤師を支援する薬剤師会の仕事などを紹介します。
		休 憩					
		14:50～15:35	田島 亮	クオール薬局 西葛西店	49	患者のニーズと変わる薬局 ～薬剤師業務は調剤に非ず?!～	
		15:35～16:20	金澤 幸江	ポプリ薬局	12	地域医療連携の中の薬局薬剤師業務って？	休日・夜間対応、災害時対応、地域ケアネット、介護認定審査会、学校薬剤師、在宅医療
企業	5月11日	13:10～13:55	若松 正克	新日本科学	26	用語解説/医薬品業界の全体像	企業の部を受講するにあたって、知っておきたい用語を中心に医薬品業界の全体像を紹介いたします。
		13:55～14:30	樽野 弘之 若松 正克	第一三共 新日本科学		キャリア・デザインについて（1）	「薬学生・薬剤師のためのヒューマニズム#22」をベースに、薬学部卒業生としてのキャリアデザインの考え方をレクチャー
		休 憩					
		14:40～15:25	樽野 弘之 若松 正克	第一三共 新日本科学		キャリア・デザインについて（2）	キャリアデザインについて考えてみよう！
		15:25～16:20	樽野 弘之	第一三共	22	（グローバル化・企業採用関連情報）	製薬会社が向かうべき姿（グローバル化、新薬開発）とこれから製薬企業の中で薬学生が果たすべき高度な役割（能力およびスキル）とは何か

企業	5月18日	13:10～13:55	アステラスで検討中	アステラス製薬	39	(営業)MR(医薬情報担当者)のここでしか聞けない本音話	MR(医薬情報担当者)の一日・・・「嬉しかったこと」「辛かったこと」に加え、あまり大きな声で言えないような裏話を紹介します。	
		13:55～14:40	鈴木 敦子	テルモ	29	(医療機器)医療機器の臨床試験－具体的な事例を中心に－	医薬品と医療機器の治験・申請業務を両者の違いを中心にご紹介します。	
		休憩						
		14:50～15:35	飯野 直子	テラ		(研究)ベンチャー企業の現状と課題－再生医療・細胞治療の実用化・産業化への取り組み－	細胞・再生医療の実用化・産業化について、患者志向かつベンチャー志向で物事を考えてみよう。	
		15:35～16:20	本日の講師	Discuss		講師と受講生でディスカッションしましょう！	今後の医薬品業界は、どうすべきなのか？	
企業	5月25日	13:10～13:55	田口 伸行	アステラス製薬	39	(営業本部)	MRを経験した後にキャリアアップとしての営業本部の仕事とは。	
		13:55～14:40	真嶋 修慈	第一三共	38	(新薬開発)－臨床試験立案・モニタリングから申請・承認取得まで－	新薬開発(適応拡大を含む)の主役である開発担当者の業務について、モニタリング業務を中心に、必要となるスキルも交えながら幅広く紹介します。	
		休憩						
		14:50～15:35	中村 宏	ディーエイチシー	23	(一般薬・サプリメント)身近なクスリ・大衆薬とは	皆さんがTVCMでおなじみのOTC医薬品やサプリメントは、どのように開発され、市場にだされていくのか、またOTCメーカーでの薬剤師の仕事？などについて、医療用医薬品とは一味違ったOTC医薬品の姿を紹介します。	
		15:35～16:20	本日の講師	Discuss		講師と受講生でディスカッションしましょう！	今後の医薬品業界は、どうなっていくのか？	
病院	6月1日	13:10～13:55	斉藤 達也	国立病院機構相模原病院	13	薬剤部長の考える病院薬剤師	昨年採用され、病院薬剤師として1年が経過した斉藤講師に現在行っている業務、心境と将来への希望を話してもらいます。	
		13:55～14:40	紺野 英里	国立がん研究センター中央病院	47	薬剤師レジデントについて	今年、がん研究センター中央病院レジデントを終了した紺野講師が、レジデントの道を選んだ心境や癌治療に対する思いについて話していただきます。	
		休憩						
		14:50～15:35	折山 豊	東京大学医学部付属病院	43	若手病院薬剤師の一日	中堅の薬剤師として業務を担う折山講師が社会人大学院で学び、さらなる飛躍を目指した動機などを話していただきます。	
		15:35～16:20	小高 賢一	新百合ヶ丘総合病院	13	薬剤部長の考える病院薬剤師	薬剤部長が病院薬剤師の現状を踏まえて将来像と問題点など各講師の講義内容の解説も含み話します。	
全体座談会	6月8日	13:10～14:40	SGD			講義で聴きたかった事、確認したいこと、全部聞いちゃおう		
		休憩						
		14:50～16:20	SGD			講義で聴きたかった事、確認したいこと、全部聞いちゃおう		
情報交換会	6月8日	16:30～18:00	参加可能講師陣			講師陣と受講者の懇談会 質問できなかったこと最終確認・討論		

平成25年度 実践社会薬学講座 開講のお知らせ

**本音で
講義**

社会で活躍する先輩たちが、在校生に直接語りかける貴重な講義！
企業、行政、医療職の薬剤師業務に関する最先端かつ最新情報を提供！

講師一挙紹介(所属・職名)
 石井 平一：薬学部同窓会会長
 伊藤 隆雄：伊藤製薬株式会社 取締役
 高橋 未明：厚生労働省
 若松 正克：株式会社新日本科学
 紺野 英里：第一三共株式会社
 小島 賢一：国立成育医療研究センター 薬剤部長
 金澤 幸江：薬師会

対象学生：YP2年生以上
 平成25年4月13日(土)第1回開講
 教室：1612教室
 時間：13時10分～16時20分
(終了時間延長の場合もあり)
実践社会薬学講座は、東京理科大学薬学部同窓会がサポートしています

開講日	業 界
4/13	全体ガイダンス 行政・薬剤師会
4/20	行政・薬剤師会 薬 局
5/11	企 業
5/18	企 業
5/25	企 業
6/1	病 院
6/8	全体討論会 情報交換会

担当教員：上村直樹 伊藤院一成
 16号館1階実務薬学研究室

平成25年度実践社会薬学講座のポスターです。

第29回 薬学講座 開催要項

期 日	平成25年10月19日（土）
時 間	10：30～17：00（10：00 受付開始）
定 員	240名
場 所	東京理科大学神楽坂キャンパス1号館17階（記念講堂）
参 加 費	2,000円（講演要旨代を含む） ※昼食代は含まれておりません。
主 催	東京理科大学薬学部
共 催	東京理科大学生涯学習センター 東京理科大学薬学部同窓会 公益財団法人日本薬剤師研修センター 文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン採択事業

● 開催の趣旨 ●

医薬品はその使用方法によって、期待する効果（有効性）だけではなく、マイナス効果（副作用）が現れるため、医薬品の適正使用は非常に重要であります。そのためには、医師、薬剤師、患者の連携の下、的確な診断に基づいて、患者の症候に合致した最適な薬剤、剤形や用法・用量を決定後、調剤が行われ、患者が十分に薬剤を理解した上で、医薬品を服用する必要があります。

今回の薬学講座は、医薬品の適正使用を様々な角度から理解して頂くために、4つの講演を先生方にお願ひしました。まず、寺田先生には薬を取り巻く薬学のサイエンス全般について、藤村先生には時間薬理学に基づいた薬の適正使用について、菊池先生にはナノDDSとして注目されているリボソームについて、松山先生には薬剤師における基礎薬学の必要性について、それぞれ、ご講演して頂きます。

現場の薬剤師、また医療関係者の皆さまの一助になることを願いつつ、更に文部科学省がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン採択事業にも役立つような薬学講座を企画しましたので、奮ってご参加して頂きますよう、お願い申し上げます。

● 講座のお申し込み方法について ●

原則、インターネットでのお申し込みのみとさせていただきます。インターネットがご使用になれない方は、東京理科大学生涯学習センターまでお問合せください。なお、受付締切は平成25年10月9日（水）とさせていただきます。また、定員になり次第締め切らせていただく場合もありますのでご了承ください。

インターネットによるお申し込み

東京理科大学生涯学習センターのホームページからお申し込みください。

<https://manabi.tus.ac.jp>

受付結果の送付

お申し込み受理後、受付結果（受講証）と振込用紙を郵送いたします。

受講料の納入

振込用紙を使用し、コンビニエンスストアかゆうちょ銀行で受講料を納入してください。

講座の受講

受領印の押された振込用紙の受領証を、受講証の指定箇所に貼付してください。

講座当日には、受講証及び筆記用具をお持ちください。

第29回 薬学講座プログラム

		(司会 東 達也)
10:30～10:35	開会の辞	実行委員長 山下 親正
10:35～10:40	学部長挨拶	東京理科大学 薬学部長 牧野 公子
10:40～11:50	(座長 秋本 和憲)	
	「薬の効き方・効かせ方」	新潟薬科大学 理事長・学長 寺田 弘
〈11:50～12:50 昼食・休憩〉		
12:50～14:00	(座長 鍛冶 利幸)	
	「時間薬理学に基づいた薬の適正使用」	自治医科大学医学部臨床薬理学 教授 藤村 昭夫
〈14:00～14:15 休憩〉		
14:15～15:25	(座長 東 達也)	
	「ナノDDSとしてのリポソーム医薬品—現状と今後の展望」	エーザイ株式会社理事 製剤戦略担当部長 菊池 寛
〈15:25～15:40 休憩〉		
15:40～16:50	(座長 花輪 剛久)	
	「予見的医薬品情報を可能とする基礎薬学の知識」	近畿大学薬学部医薬品評価解析学分野 教授 松山 賢治
16:50	閉会の辞	副実行委員長 鍛冶 利幸

※今回の薬学講座は公益財団法人日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度の認定対象研修会であり、参加される場合は、3単位の修得となります。ご希望の方は、当日会場にて受講シールをお受取りください。なお、途中入退場者にはお渡し出来ません。実質4時間30分を受講した方に受講シールをお渡します。



お申し込み先



東京理科大学生涯学習センター

〒162-8601 東京都新宿区神楽坂1-3

TEL: 03-3267-9462 FAX: 03-3267-2048

E-mail: manabi@admin.tus.ac.jp

URL: https://manabi.tus.ac.jp

日本薬剤師会のJPALSについて

日本薬剤師会 生涯学習委員会委員長 上村 直樹



平成24年4月から日本薬剤師会の生涯学習支援システムJPALSがスタートしました。このシステムは日本の薬剤師のレベルを上げて、国民から信頼される薬剤師にすることを目標としています。日本の薬剤師免許には更新制度がありません。国家試験に合格して薬剤師登録をすれば一生プロの薬剤師としての資格が与えられます。よって自らが率先して薬剤師職能の更新をしなければなりません。つまり国民から信頼される薬剤師になるためには生涯に亘って研鑽し続けることが必要です。しかし自己研鑽つまり生涯学習は薬剤師ひとりひとりの意志に任されているため、制度を考えなければなりません。英国の薬剤師免許は更新制が取り入れられており、薬剤師は毎年自分自身の学習の記録（ポートフォリオ）を提出して更新を行っています。免許更新制度の導入によって国民の期待に応え、質の高い医療を提供できる更なる薬剤師の役割につながっているようです。

欧米で実施されている薬剤師の生涯学習は、CPD（Continuing Professional Development：継続的な専門能力開発）を基本にしています。CPDは、Reflection（自己査定）⇒Planning（計画）⇒Action（実行）⇒Evaluation（評価）というサイクルを繰り返しながら学習を続けます。（図1）その際、自分の学習状況を把握するために記録が必要になり、その記録を行うアイテムがポートフォリオ（Portfolio）です。日本ではAction（実行）だけが記録されていたため、効果的な学習ができていたとは言えません。欧米に比べてかなり遅れをとってしまったのです。しかしCPD方式によるJPALSをスタートさせたことにより、薬剤師の生涯学習としても先進国の仲間入りをしたこととなります。後はこのシステムをどれだけ多くの薬剤師が利用するかが重要になってきますが、スタートから1年間で2万人を越える登録がありました。



図1 継続的な専門能力開発（CPD）

JPALSはポートフォリオとプロフェッショナルスタンダード（PS）とクリニカルラダー（CL）の3本柱から成り立っています。中心はポートフォリオで、WEB上で学習記録を残すシステムです。PSは平成21年に発表しましたが、ポートフォリオに記録していく上で基準となります。CLは学習レベルを設定して生涯学習を実施することにより上がっていくシステムです。一般的に効果的な学習には「競い合い」と「ルール（基準）」と「判定（評価）」が必要とされています。適度な競争はモチベーションを刺激します。しかしそこには正しい基準と公平な評価が必要です。まさに基準がプロフェッショナルスタンダードであり、競い合いと評価のシステムがクリニカルラダーです。プロフェッショナルスタンダードは薬剤師の学習の指標としてだけでなく、ポートフォリオへの記録とCPD実践のための補助ツールでもあります。またクリニカルラダーはモチベーションをアップさせ、継続するためのツールと言うこともできます。既にJPALSに登録されて生涯学習を始められた方にとっては、JPALSがCPDに沿ったシステムになっていることも実感されたことと思います。（図2）

クリニカルラダーレベルは薬剤師の能力をランク付け



図2 JPALSのトップページ

しているわけではありません。レベル1は決して恥ずかしいことではなく、自分が生涯学習を始めている証であるため、堂々と公開してよいと思います。例えば履歴書などにも記載して自己アピールに利用するのも一つの方法でしょう。そうすることによって、社会もクリニカルリーダーを利用することになるでしょう。会社にとっては、就職や採用での評価や賞与査定の評価に利用することが

考えられます。また、他の学会などの認定制度や専門薬剤師制度などの条件に利用されることも考えられます。

システムができると社会も変わる。JPALSが薬剤師免許の更新制度のない我が国にとって、国民から信頼される薬剤師となるためになくしてはならないシステムとなるように、日本の薬剤師全員で育てていただくことを願っています。

トピック

一般用医薬品のネット販売を巡る動向について



小林 寧 (26期)

すでに新聞報道などでご存知のことと思いますが、一般用医薬品のインターネット販売業者が第1類・第2類医薬品の通信販売を行う権利の確認を求めた裁判において、本年1月11日、「厚生労働省令で一律に第一類・第二類医薬品の郵便等販売を禁止していることは、薬事法の委任の範囲内と認めることはできない」との最高裁判決が下されました。

判決後、厚生労働大臣は直ちに談話を発表し、関係者に慎重な対応を求めるとともに、国民に対しインターネット販売の利用にあたっては一般用医薬品の使用のリスクを十分認識し、適切に対応するよう求めました。また、今後について「関係事業者などの関係者に広く御参画をいただき、法令などの郵便等販売に関する新たなルールを早急に検討する」との方針を示しました。

こうした流れを踏まえ、厚生労働省は本年2月、「一般用医薬品のインターネット販売等の新たなルールに関する検討会」を設置し、従来の規制に代わる一般用医薬品のインターネット販売等についての新たなルール等の検討を開始しました。この検討会は1～2週間に1回の頻度で開催され、4月26日の第7回会合では一般用医薬品をインターネットで販売する場合の「安全性確保のための方策」と「方策に対応する具体的な条件」(案)が事務局より示されました。

安全性確保のための方策としては、①安心・信頼できる店舗において販売されること、②使用者の状態や状況、問題意識、困っている点などが正確に専門家に伝わり、それらに基づき使用者の状態等を適切に確認できること、③必要な資質・知識を持った専門家が確保されていること、④医薬品の必要な情報を、専門家が積極的に、分かりやすく、かつ確実に購入者側に伝わるようにし、購入者側がそれを適切に理解できること、⑤購入者側の相談に専門家が適切に応じられること、⑥医療が必要な

人に適切な医療にアクセスさせられること、⑦多量購入、頻回購入等を防止可能なこと、⑧医薬品の陳列、表示等が適切に行われること、⑨販売後も必要な相談に応じるための体制が整備されていること、⑩保管や搬送に当たり、専門家の管理・監督の下、適正に医薬品の品質管理等が行われること、⑪医薬品の選定から情報提供、受渡し、販売後のフォローにわたる全ての流れにおいて、専門家が関与、管理・監督し、購入者側からもそれが明確に分かること、⑫医薬品の適正使用を促すこと、⑬個人情報適切に管理されており、適切にセキュリティー対策等が実施されていること—の13項目が挙げられました。これらの方策に対応するため、基本的には、店頭における対面販売の場合と同様の条件をインターネット販売の場合にも義務付ける方針が示されました。

また、インターネット販売を行うための具体的な条件として、①薬局・薬店の許可を取得した有形の店舗が行うこと(無店舗のインターネット販売は認めない)、②都道府県へ販売サイトのURL等を届け出ること、③販売サイトが正当なものであることを示すために国又は都道府県が発行する標章(ロゴマーク)を販売サイトに表示すること、④専門家の氏名等の基本情報や顔写真、薬剤師免許証の画像をサイト内に分かりやすく表示すること、⑤コミュニケーション手段として、メール以外にテレビ電話及び電話を確保すること、⑥注文のみを受け付けて販売しない時間がある場合には、それぞれの時間帯を販売サイトに表示すること、⑦なりすましや販売サイトの改ざんなどを防止するためのセキュリティー対策を講じること—などが新たに示されました。同検討会は5月中にも一定の結論をまとめ、その後、厚生労働省が具体的な条件を制度化するための規定を設けることになりました。

一方、最高裁の判決後、内閣府の規制改革会議が一般

用医薬品のインターネット販売を求める動きを強めています。同会議は本年3月8日、「一般用医薬品のインターネット等販売規制に関する規制改革会議の見解」を公表し、一般用医薬品のインターネット等販売規制を「特に緊急性・重要性の高い最優先案件」と位置付け、「全ての一般用医薬品の販売を可能とする」ことや「安全性を適切に確保する制度的枠組みを遅くとも半年以内に設ける」ことを政府に対して求めました。また、4月17日には、日本の規制を諸外国と比較して必要性を検証する「国際先端テスト」を導入し、一般用医薬品のインターネット販売など14の規制を対象とすることを決定しました。わが国の規制に合理性がなく所要の見直しが必要と判断した場合には、規制改革会議から所管官庁に見直しを要請するとしています。

さらに、内閣に設置された日本経済再生本部、同本部の下に設置されている産業競争力会議、高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部（IT戦略本部）も、医薬品のネット販売に係る規制緩和を推進する方針を相次いで打ち出しています。こうした規制緩和を求める方針は、政府が6月中にまとめる成長戦略（いわゆる骨太の方針）に反映される見通しです。

以上のように、一般用医薬品のインターネット販売を巡っては、厚生労働省においてルール作りが進められる一方、政府全体としては規制緩和を求める動きが強まっており、予断を許さない状況が続いています。本誌が発行される頃には、一定の結論がまとまっているものと思われる。



「定年後の過ごし方の準備は？」

黒崎 浩己（1期生）



“薬学部の今年の卒業生は、第50期”とのこと。第1期生の私が古希を過ぎて7回目の干支を迎えるのも無理のない話です。編集部から依頼されて、今後迎えられる定年退職者がどのような定年後を過ごしていったら良いか、自分の経験が少しでも参考になればと思い書くことにしました。

製薬会社を定年退職して某大学の非常勤講師を7年間勤めた後、完全に無職（年金生活者）になりました。今は、自治会やボランティア的な活動と趣味を楽しんでいます。

趣味としては、まず写真（カメラ）があります。中学時代に暗室で現像・定着をして面白さを味わい、入社一年後に上司から一眼レフカメラを譲ってもらってから撮影頻度が増しました。初めは3人の子供たちが撮影対象の中心でしたが、近年は孫達に対象が変わりました。4人の孫が地元の少年野球部に入っているのです、西武ドームでの大会があれば出かけ、別の孫が千葉マリスタジアムでの試合があればこれにもでかけて、望遠レンズで撮影しています。定年退職後は、長期の海外旅行にも行けるようになったので、友人夫妻達と南アフリカやドバイ、トルコ、モロッコや地中海クルージングなどへ旅行に行った時には、写真を撮りまくりました。当然旅行も趣味の中に加わりました。

旅行後に、旅先で入手した観光資料や切符などと写真との配置を工夫しながら、数日かけて数冊のアルバムに整理するのが、旅行後の楽しみになりました。友人の中に写真をDVD化してくれたので、後日このアルバムとDVDを友人達と食事をしながら思い出を語り合うのが楽しみになりました。

入社2年目に後輩から年賀状用に版画を彫ることを教えてもらって以来、喪中の年以外は、必ず版画の年賀状を出し続けています。今はこの下手な年賀状を楽しみに待っていてくれる人がおられるので、これは当分止められません。

同じように彫刻刀を使う“鎌倉彫”というのがあることを知って、10年前に市内の同好会に入りました。この会は平均年齢が約70歳の男女10人程度のクラブですが、今は技術は劣るもののこの会の会長を引き受けていま

す。月2回2時間ずつの集まりですが、おしゃべりが多く敬老会的な和やかな雰囲気でもあります。全く知らないグループに入って交際範囲を広げることも認知症を遅らせることにもなると思っています。

10年前から社交ダンスを始めました。学生時代、都内の大学のダンスパーティーに出かけ、有名なバンドの生演奏で踊った自己流ダンスとは違って、ダンス教室での個人レッスンでの踊りです。音楽に合わせて男女が手を取り身体を寄せ合って踊ることは、精神的（青春的）に好ましいと言われています。遂にホテルニューオオタニ幕張で先生と組んで3年ほどデモをしたこともありました。今は、事情があってお休み中です。

他の趣味としては、ゴルフ、野球観戦、読書、映画鑑賞（最近では手元の100余枚のDVD鑑賞）、ジグソーパズル等があります。

お勧めするのは、一人のできるものと複数の人とするものの両方の趣味を持つことと、雨天でもできるものを持つこと。これらを在職中に徐々に準備しておくことが大切でしょう。

最後に重要なことは、これらの趣味を実行するには“お金”が必要なことです。それも自分だけが自由に使えるお金です。配偶者がおられる方の場合、早くから定期的に入手できるように交渉しておくことが大切でしょう。

ここまででは、趣味に関することを書きましたが、定年後は社会への還元という意味でも“ボランティア”的活動をして“生きがい”がある、精神的満足感が得られるような行動を心掛けたいものです。

以上

卒業生近況報告



野村 香織 (34期生)

薬学部は2003年4月に神楽坂から野田に移転しました。その10年目の節目に執筆させていただくことになり、大変光栄です。私は製薬学科を卒業してから公務員と独立行政法人職員として勤めた後、現在、「くすりの適正使用協議会」(IHRAD-AR協議会、以下RAD-AR)に勤めています。

医薬品のリスクとベネフィットを評価するための一つの手法として薬剤疫学がありますが、RAD-ARは立ち上げ当初から薬剤疫学の普及と推進を行い、主に製薬企業を対象にセミナーや勉強会を開いています。この業務でお世話になっているのが、製薬学科OBで生物統計学を専門とされている浜田知久馬教授(工学部経営工学科)です。薬剤疫学に関しては、数年前から厚生労働省は医薬品の安全性評価のために薬剤疫学の専門家が必要であるとコメントしていましたが、今まで理科大薬学部には薬剤疫学を専門とされる先生がいらっしゃいませんでした。この4月に赴任された佐藤嗣道先生には、日本薬剤疫学会等で何度か一緒させていただいていましたので、今後母校でも薬剤疫学を教えていただけるのではないかと私は勝手に期待しています。

また、RAD-ARは、薬剤師を中心とする医療関係者と患者さんとのコミュニケーションを促進するため「くすりのしおり®」という、A4 1枚程度にくすりの情報を分かりやすく纏めた資料を提供しています。最近は、学生の服薬指導実習の際にも使っていただく学校が増えてい

ると聞いています。もちろん、理科大薬学部でも使用されています。この業務の関係では、薬学科の後藤恵子教授にお世話になり、薬剤師と患者の対話をコミュニケーションのポイントを簡単に紹介した動画を製作しました。この動画では、薬情では説明しきれない情報を、くすりのしおり®を用いて患者さんに説明するシーンを盛り込んでおり、動画のシナリオ作成から実際の撮影現場のアドバイスまで幅広いご協力をいただきました。さらに、上村直樹教授が執筆された医薬品情報学の教科書にもくすりのしおり®をご紹介いただきましたし、他大学では医薬品情報学の試験問題として、インターネットから特定の薬のくすりのしおり®を検索するというのを出题しているそうです。

私は薬剤師として医療現場に出ることはありませんが、これからも様々な形で薬に携わる仕事をしていきたいと思っています。また、社会に出てから何年たっても切っても切れない関係の母校に感謝しますと共に、恩師や先生方、諸先輩方にはこの場を借りまして御礼申し上げ、筆を擱かせていただきます。

くすりの適正使用協議会
<http://www.rad-ar.or.jp/>



くすりのしおり
<http://www.rad-ar.or.jp/siori/>



退職にあたって

薬品合成化学研究室 小林 進



前職の相模中央化学研究所にいたとき、企業の方から常に、「合成できる学生が少なくなった」ということを言われ続けていました。そこで、理科大に着任するにあたっては、研究テーマを合成に絞ることとし、企業が求める人材を輩出することを一番の目標にしました。以降、17年間にわたって、それなりの成果を挙げつつ、学生を世に送り出すことができたことを自負しています。解析的な研究は実験をやれば必ずデータは得られます。しかし、合成は実際にモノを作って結果を出さなければなりません。一年のうち、実験がうまくいくのは数日くらいのもので、下手な鉄砲も数撃てばで、勝手なアイデアを出したり、変えたりの繰り返しでした。悪循環にならずに学生のモチベーションを保ってこられたのは、偏に優秀な助手に恵まれたことに尽きます。高尾賢一君、細川誠二郎君、中崎敦夫君はそれぞれ慶大、早大、名大の准教授にステップアップでき、現在の鈴木孝洋君も4月からは早大に転職します。彼らが、それぞれの個性を十二分に発揮しながら学生を上から引っ張り上げ、あるいは下から押し上げてくれました。学生諸君の頑張りが

全てですが、彼らに心から感謝しています。

また、途中で野田に移転したことは個人的には良かったです。野田の教員宿舎に週4回泊まる初めての半単身赴任生活を楽しみ、学生と朝から夜まで常に接することができました。学生も近くに住むので、時間を気にせずに実験に打ち込みました。そういう学生たちに負けじと、こちらも真剣になります。僕はもともと怠惰な性格なので、あのまま神楽坂にいたならば安易な道に逃れてしまったかも知れません。

理科大薬学部は、受験生の人気では慶大の後塵を拝していますが、研究面では、はるかに凌駕していることは周知のことです。これは先輩教員、学生たちの長年にわたる努力の賜物です。しかし、このままだと理科大薬学部は北里、星にどんどん差を詰められるのではないかと危惧しています。是非、慶應の尻尾を掴めるようにしてもらいたいと願います。優秀な教員、向上心溢れる学生、質の高い研究、これらが揃って理科大薬学部は再び私学の雄として君臨できるものと確信しています。

今後のご健闘を祈っております。

退職のご挨拶

臨床薬物代謝学研究室 石井 賢二



本年3月末日をもって、理科大薬学部での教員生活が終わりました。32年半前古巣の毒性学・微生物化学研究室に講師として赴任してから今日まで大過なく過ごすことができほっとしています。赴任してから間もなく、薬学部創立25周年の事業として田町校舎（10号館）の建設のため卒業生からも寄付を募ることになり、名簿整理委員会のメンバーとして研究室ごとに集めた名簿を若宮校舎のコンピュータ室に出向き入力したことは大変な作業であったが、後に薬学部同窓会に提供して有効利用されたと思っています。この募金に関連して、本薬学部は卒業生へのサービスが不足しているとの意見と卒後教育の

充実との考えから「薬学講座」も開始されました。一方、同窓会からの提案であった「実践社会薬学」をカリキュラム検討委員会で認めて頂き、大学側の担当者として宇留野先生とともに開講させることができました。その後、担当者は代わり、現在のような形になっています。このように、卒業生の教員として、同窓会とも何らかの関わりを持ってたと思っています。

退職後も非常勤の仕事は続けていますが、退職したらやろうと思っていた多くのことに時間をさけられればと考えております。

東京理科大学薬学部での 41年を振り返って

医薬品情報学研究室 太田 隆文



1972年に助手として採用されてから41年間勤務してきました薬学部を本年3月末で定年退職することになりました。この間、私が教員として成長し、大過なく職務を全うできたのは、お世話になりました衛生化学講座(11年間)、薬品分析化学講座(13年間)、医療系研究室(17年間)での諸先生方、同窓生の皆様と職員の皆様のご指導、ご鞭撻、ご支援の賜と心から感謝申し上げます。

在職41年の間には様々なことがありましたが、私にとっては、それまで浮かんで消えていた薬学部野田移転の現実化、薬剤師教育6年制への移行、薬学部教員組織の講座制から研究室制への移行が同時に起こった1996年以降がとりわけ感慨深く、激動期であったと感じています。私自身の専門として医薬品情報学を掲げて試行錯誤を始めたのもこの時期でした。今後、この名称からは内容の把握しにくい分野が実務としてだけでなく薬学の一学問分野として定着、発展してくれることを祈りたいと思っています。

臨床の現場が常に身近な医学部とは違って、薬学教育では基礎分野と医療分野を体系的に学ぶことがモデル・コアカリキュラム制定までありませんでした。今、研究面でも両分野は薬学という車の両輪であることが求めら

れています。薬学の教育・研究における両分野協力の歴史は浅く、現状では齟齬や対立も目立ちますが、双方向的な流れは新しい物を生み出し、薬学を成熟に導くと確信しています。昨年のノーベル医学賞を受賞された山中伸弥氏は臨床医から基礎分野へ転身された方でしたが、常に臨床応用を志向されているこ



旧5号館3階から見た別館と外堀対岸の未完スケッチ(1983年頃)

とは印象的です。6年制教育の真の完結は、本制度の後継者育成課程である大学院博士課程までを含み、その意味では現状は未完成です。完成に向けて基礎、医療両分野の教員が活発に連携できるような体制作りとそれを支える職員のあり方について検討を重ね、本学薬学部が益々発展することを期待してやみません。

退任のご挨拶

医薬品科学研究室 松岡

ゆたか
隆



3月11日にこの原稿を書いています。あの東日本大震災からまだ2年しか経っていないのですね。これからが復興の正念場と感じます。

昭和52年の4月に薬学部薬理学教室の久保田和彦教授の下で助手に採用になってから36年間を理科大薬学部の教員として過ごしました。自分の人生の半分以上を理科大で過ごしたことになります。中学の時にカイガラムシを研究されていた神田先生にお会いして、生物の道に進み、それから原博先生、森脇千秋先生、辰野高司先生(お父様の仏文学者隆先生が私の名の由来です)、久保田

先生、高木敬次郎先生、高柳一成先生、齋藤洋先生、江橋節郎先生、鶴田禎二先生、増山元三郎先生、吉村功先生といった偉大な師に直に接することが出来たのは幸運と言えます。自分もこれらの先生方の万分の一でも真似できれば「何故、どうしてって追求するのが楽しいことだろ」を次の世代に伝えられればと願ってきたのですが、アンケートの学生による授業評価では惨憺たる有様でした。でもほんの一部の学生ではありますが、「判るようになった」、「楽しくなった」と言ってくれたのが救いです。自分が最初に投稿したToxicology and Applied

Pharmacologyの査読者が英文を懇切丁寧にcheckしてくれて、acceptしてくれたこともあり、自分が査読者になってからは、投稿者により良い論文を提出してもらえらるようなコメントをしたつもりで、それもあってかPharmacologyやBiological Scienceの薬学系の雑誌だけでなく、医学系、Natural Medicine、農学系、獣医系の雑誌からの査読依頼が来たので少しは社会に対して貢献できたかなと自負しています。

今、理科大の薬学部は大変な岐路にさしかかっている

と思います。薬学科の定員が100名に増え、生命創薬科学科と同じ定員になりました。どのような薬学部に進んでいくのか、社会のニーズも踏まえ、教員のコンセンサスが必要で、対立するのではなく一丸になって、闊達で活気溢れる正義感に満ちた薬学部を再生していただきたいと願っています。この36年間、自由にやらせていただいた大学に感謝すると共に、私大薬学の雄として何時までも居て戴きたいと願っています。

新任の挨拶

新任の挨拶

平成24年就任

医療デザイン学研究室 花輪 剛久



平成24年4月より「医療デザイン学」教室を担当しております花輪剛久と申します。宜しく御願ひ申し上げます。

「医療デザイン」とは？と、お思いになる皆様もいらっしゃるかと思います。ここで私の経歴と少し関連づけてお話ししたいと思います。

私は千葉大学大学院薬学研究科（仲井由宣教授）修了後、東京女子医科大学病院薬剤部に入局致しました。そこでは杉原正泰教授を中心に「高齢者を対象とした新規剤形および包装容器に関する研究（シルバーサイエンス研究）」が行われていました。私の研究生活の発端はこの研究に関わった事に始まっており、現在は「患者にやさしい製剤」と、広い世代に受け入れられる製剤開発に至っております。その後、千葉大学製剤工学研究室（山本恵司教授）に一時助手として勤務した後、山梨大学医学部附属病院で十余年にわたり勤務して参りました。そこでは中島新一郎前教授のもと、これまでの研究に加え、医療用高分子と医薬品の相互作用の研究に携わる事が

できました。いずれの研究も患者さんに近いところで行うことができ、まさに「医療現場のニーズに応える研究」を展開してきたと考えております。こうした経験を活かし、医療現場で生じている多様なニーズにきめ細やかに応える事ができる柔軟性のある研究を展開するために「医療デザイン」はまさに当を得た名前と考えています。

東京女子医科大学病院には理科大出身の同僚も多勢いたことや、理科大の卒業研究生を数年にわたり指導する機会があり、皆立派な研究を成し遂げていったこと、さらに、杉原正泰教授も退職後、理科大学に教授として着任されたことなど、理科大学には兼ねてより親近感と憧れの念を抱いておりました。その理科大学に職を得る事ができたのはとても幸せな事と感じております。

着任して1年が経過し、学務にも少しずつ慣れてきましたが、まだまだ至らない点も多いと思います。今後もOB・OGの皆様のご指導を賜りながら頑張っていきたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

新任の挨拶

平成24年就任

情報物理化学研究室 後藤 了



2012年から本学で薬品物理化学1の講義と実習を担当しております。よろしく御願ひします。それまで国際医療福祉大学薬学部の設立に参加し、薬学部6年制1期生

とともに1年次早期体験実習、4年次共用試験CBTとOSCE、5年次病院実務実習と薬局実務実習、そして第97回薬剤師国家試験を歩み、この新しいシステムに対す

る期待や希望、あるいは困難や課題を学びとりました。同時に学生数の激減と地方私立大学における募集定員割れ、ゆとり教育世代そのものを身近に感じました。

1909年寺田寅彦がストックホルムのアレニウスを訪問したとき、最小限の実験器具だけが置かれた閑散とした研究室だったそうです。このローコストのスマールラボこそ薬剤師による研究活動を啓蒙する良質の教育モデルであると考えており、前職でもまた現職でも学生の身の

丈にあう実験と、壮大な科学の追求の両立を目指しています。

研究室では医薬品分子の構造ゆらぎを理論化学的にとらえる方法を模索しており、そのような挙動になるべく直接関係ある実験的観測を行います。そうすることで、まるで人間の体にフィットした衣服をデザインするように、生体にフィットする医薬品デザインや製剤デザインに挑戦します。

新任の挨拶

平成24年就任

分子医科学研究室 秋本 和憲



平成24年4月に赴任し、生化学、分子生物学、がんなどの基礎生物系の講義や実習を担当しております。研究面では、がんの種(たね)であるがん幹細胞に着目し、このがん幹細胞を標的とした創薬を目指して研究を進めております。私は、東京出身で、1991年に本学薬学部薬学科を卒業しました。そのまま本学大学院に進学して1996年に博士課程を修了しました(博士(薬学))。博士課程修了後は、横浜市立大学医学部の基礎系教室に奉職し、丸15年にわたり、医学生、看護学生や臨床医を相手

に医学研究・教育に従事してきました。

このように長い間、薬学から離れていましたが、ご縁があり母校でお世話になることとなりました。私が、薬学を離れていたこの間、臨床業務での医薬分業化が進み、教育面では薬学部が6年制となり、薬学部を取り巻く環境が大きく変わりました。微力ではありますが、これまでの研究・教育経験を活かして、母校の今後の発展のお役にたきたいと考えています。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

新任の挨拶

平成24年就任

医療分子生物学研究室 高澤 涼子



生物系の講義ならびに医療系の実習を担当しております高澤と申します。よろしく申し上げます。私は、都立戸山高等学校を卒業後、東京理科大学薬学部に進学しました。引き続き大学院に進学して、本学ゲノム創薬研究センターポストドクトラル研究員、薬学部助教を経て、平成24年4月から講師として医療分子生物学教室を担当することになりました。

私が現在取り組んでいる研究テーマは、がん細胞特異的エネルギー代謝を標的とした新規がん剤の創製です。近年、がん細胞がもつ特定の分子をターゲットとして有効な分子標的治療薬が開発されてきていますが、その一方で、予想外の副作用や薬剤耐性が出現するという

問題が起きています。このような分子標的治療薬の問題点の抽出、分子標的の設定およびバリテーションに必要な情報収集を行い、*in silico*創薬手法を用いて個々人の遺伝子差異に対応した副作用の少ない新規がん分子標的治療薬を創製することを目指しています。私は、これまで基礎研究のみを行っていましたが、新たに医療系の教育に携わることになったことをよい機会として、基礎と臨床をつなぐ研究を目指していきたいと考えています。そして、臨床を見据えた基礎研究を通して、研究者としてまた薬剤師として社会に貢献できる人材を育成するよう、努力してまいります。

新任の挨拶

平成24年就任



有機薬化学研究室 稲見 圭子

平成24年4月より有機化学の講義ならびに実習を担当しております。共立薬科大学博士課程を修了後、米国立がん研究所で博士研究員、その後共立薬科大学講師を経て、東京理科大学薬学部へ赴任して参りました。私は茨城県で生まれ、毎日筑波山を見て育ちました。理科大へ赴任してからは、研究室から毎日筑波山を眺めることができ、うれしく思っております。

短い間でしたが薬剤師として病院に勤務した経験もあり、専門が有機化学であることから、医薬品の構造に基づいて活性を理解できるような講義を目指し、薬学で学ぶ有機化学の特色を引き出せるような講義をして参りたいと考えています。研究におきましても、疾病を有機化

学の立場から研究することを念頭に置き、新しい化合物を創製し、生物活性を明らかにして、さらに有効な活性化合物を作ります。特にがんの発生と制御を有機化学的に解明することを目的として研究しています。発がん機構を解明することでがんを予防し、さらに制がんへの応用を目指して新しい制がん薬を合成し、がんの制御を目標としております。

学生には研究や勉学はもちろんですが、何事にも楽しんで取り組んでほしいと思います。そのためにも私も学生と一緒に研究、講義や実習に楽しく、そして誠実に取り組み、その姿勢を学生に見せていきたいと考えております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

新任の挨拶

平成25年就任

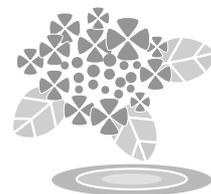


応用薬理学研究室 礒濱 洋一郎

平成25年4月より応用薬理学研究室を主宰することになりました。私は母校でもある熊本大学薬学部へ21年間勤務し、一貫して呼吸器系薬理学に関する研究に携わってきました。気管支ぜんそくやCOPDなどの炎症を基礎とする呼吸器疾患の症状である気道分泌異常を正常化することを目的とし、アクアポリンと呼ばれる水チャネルの機能調節や、漢方薬のもつユニークな薬理作用の解明を通じて、従来の医薬品とは異なる新たな治療概念を提唱できればと考えています。熊本という田舎の大学の偏屈な考えかも知れませんが、「どんなに美しく鳴こうとも、オウムにはならぬ」を合言葉に、学問を行うにも流

行を追うことなく、自らの道を拓くことを意識して参りました。首都圏の大学には来ましたが、この気持ちは常にもち続けて行きたいと思っております。

赴任前は、都会の学生達はさぞかし生意気なのでは？と、少し危惧してはいたのですが、実際に赴任して、理科大薬学部の学生達の素直さと明朗さに感激しております。大学にとっての最大のプロダクトは排出する「卒業生」であると認識しています。好奇心旺盛な学生達と一緒に研究を楽しみながら、彼らを社会で活躍できる科学者として育てられるように努力して参ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。



新任の挨拶

平成25年就任



医薬品情報学研究室 佐藤 嗣道

平成25年4月より太田隆文准教授の後任として医薬品情報学を担当することになりました佐藤です。宜しくお願ひ申し上げます。まだ慣れないことも多いのですが、先生方、職員の方々に大変良くしていただき、理科大の恵まれた環境のもとで働ける喜びを実感しています。

北海道出身で、北海道大学薬学部を卒業後、同大学の環境科学研究科修士課程を経て、博士課程は東京医科歯科大学の臨床薬理学教室（佐久間昭教授）で学びました。生化学や分子生物学に興味があり薬学部に進んだのですが、サリドマイド薬害の被害児として生まれたこともあり、次第に現実の社会での化学物質の健康影響、そして臨床での医薬品の安全性評価をテーマとするようになり

ました。

専門は薬剤疫学で、平成13年より東京大学医学部薬剤疫学講座で、医薬品の安全性を疫学の手法を用いて評価する研究を行ってきました。医薬品は社会的財産であり、開発段階と市販後に得られた情報を最適な薬物治療に活かすことが重要と考えています。

これまでお世話になった先生方、同僚、友人に、理科大で教鞭をとられた先生、理科大ご出身の方が多く、不思議なご縁を感じています。素晴らしい卒業生がおられるこの大学で学ぶ学生たちが将来、社会に貢献できるよう研究・教育に努めたく思います。どうぞ宜しくお願ひ申し上げます。

新任の挨拶

平成25年就任



疾患薬理学研究室 吉澤 一巳

2013年4月より薬物代謝学、薬物治療学、医療薬学実習などを担当しております。2012年は病院薬剤師にとって新しい時代の幕開けとなりました。病棟薬剤業務は、まさに薬剤師が医療の担い手の一員であることを示しています。私は、薬剤師が「薬学」のエキスパートとして医療の現場で活躍するためには、患者の病態を見極め、薬剤の特性を把握し、病態と個々の薬剤が有する薬理学的なプロファイルとの関連性について学ぶことが大切だと考えています。したがって、調剤や服薬指導などの長期実務実習に必要な技能に加え、病態と治療薬との関連性に焦点をあてた薬学教育に貢献したいと思っております。

私は、星薬科大学大学院薬学研究科を修了後、日本医科大学千葉北総病院に就職しました。病院ではチームの創設から「緩和医療」に携わり、医師、看護師、臨床心理士、社会福祉士など多くの仲間と出会いました。チームの一員として、また薬剤師として基礎と臨床の両方向の視点から患者の苦痛に立ち向かいたいと思い活動してきました。その後、筑波大学付属病院を経て「病院薬剤師」から「大学教員」へと転職いたしましたが、今後もこの精神を忘れずに基礎と臨床が共存する薬学研究を目指します。そして緩和医療の発展と患者の苦痛に立ち向かう薬剤師育成のために日々精進いたします。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



平成25年度東京理科大学薬学部地区交流会のご案内

皆様には益々御健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、本年度の地区交流会を下記にて開催いたします。万障お繰り合わせの上、ご出席賜りたくご案内申し上げます。大勢の皆様のご参加をお待ちしております。

平成25年6月

東京理科大学薬学部同窓会
会長 石井 甲一

■日時：平成25年9月22日（日）19：30～

■場所：『REMONE（リモネ）』

リーガロイヤルホテル大阪 ウェストウイング1階

リーガロイヤルホテル大阪は大阪・中之島にあり大阪駅より無料送迎バス運行

〒530-0005 大阪市北区中之島5-3-68 TEL：06-6441-1056

<http://www.rihga.co.jp/osaka/restaurant/list/remone/index.html>



■会費：5,000円

※ 当日 会場にて徴収させていただきます。

■申込：会場確保の都合がございますので、地区交流会に参加される方は、下記のとおり事前にお申し込みをお願い致します。電話での受付は致しません。

【申込期限】 9月6日（金）まで

【申込方法】

・同窓会ホームページの地区交流会申込フォームにアクセスし、お申込みください。

・下記内容を明記のうえ、東京理科大学薬学部同窓会事務局宛にご連絡ください。

氏名、卒業期、ご住所、電話番号

【ホームページ】 <http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>

地区交流会ご案内を掲載しておりますのでご覧ください。

【お問合せ】 東京理科大学薬学部同窓会 事務局

〒278-8510 千葉県野田市山崎2641

東京理科大学薬学部内

FAX：04-7121-4531

E-mail：jimu@ridaiyakudo.gr.jp

平成24年度地区交流会報告（静岡）

昨年度は、東日本大震災により日本薬剤師会学術大会の仙台開催が中止になり、地区交流会も中止となりました。地震と津波による被害は大きくまだ復興されていない地域もあるようですが、1日も早い復興を願っております。

今年度は、第45回日本薬剤師会学術大会が浜松で開催されたのに合わせて、地区交流会を10月7日（日）午後7時よりオークラアクトシティホテル浜松2階「桃花林」において開催いたしました。今回の学術大会は、事前登録の参加者が少ないようで、開催県では色々気をもんだようですが、会場にはたくさんの参加者が詰めかけ、盛況のようでした。

理科大薬学部地区交流会も、すでに申し込みの方に加え、浜松で診療所を開設されている旦那様の診療所を手伝わされていて、地元で開催の地区交流会と言う事で参加して下さいました一期生の月花様、公益財団法人微生物科学研究所微生物科学研究所・北里大学名誉教授でおられる、二期生の水本先生、学生時代には色々お世話になった元理科大教授で現在東京都薬剤師会の副会長をされている原先生、また、現役の理科大学薬学部の学生2名も学術大会での発表があったという事で参加され多くの参加者がありました。会場は中華の立食と言う事で、先生とまた同窓同士での懐かしい話等、にぎやかで楽し

い交流会になりました。また、石井会長が、藤井基之議員の秘書と言う事もあって藤井議員が参加して下さい、学生と記念撮影をされたりして、和やかな雰囲気の中に交流会は散会となりました。

来年は大阪で、再来年は山形だそうです。来年の大阪は楽しく、また山形の同窓生の武田さんも今回参加されていて、ぜひ山形では、たくさんの同窓生が集まって盛大に交流会を、と話しておりました。今後、同窓生の集まる場として盛り上げて行きたいと思います。

15期 日向 章太郎



2期同期会報告～第7回同期会旅行～

平成24年5月29日・30日の1泊2日の日程で、2期生恒例の旅行を信州松本安曇野方面で行いました。平成14年から毎年行っている旅行も、今回で7回目となります。今回の参加には奈良、名古屋、新潟から、そして東日本大震災で被災を受けた「いわき市」からも参加があり、24名の参加者となりました。

参加者の中には、皆勤者もいます。今回は、長野市在住のMさんが旅行幹事として、計画からホテル、バスの手配等の全てを取り計らってくれました。

29日の11時50分に松本駅に集合して、そばを食べ松本城を出た頃から小雨が当たってきましたが、安曇野へバスで移動し、安曇野温泉ホテルで入浴する者と「いわさきちひろ美術館」を鑑賞する者と共に途中で別れ、1時間後に合流し「大王わさび園」で1時間程をわさび畑の周辺を散策し、わさび味の土産品を買った後、松本で老舗の本格フランス料理レストランの「レストラン鯛萬」で旅行の無事の祈念夕食会に臨みました。

このレストランは、昭和25年創業で鳶の絡まるクラシ

カルな外装造りと、店内は重厚な松本民芸家具を配したヨーロッパの雰囲気が漂い、信州産の素材を使ったフルコース料理をワインを飲みながら、2時間掛けて堪能しました。40数年前に、このレストランで結婚披露宴をした参加者も居て、その時の様子が披露され座が盛り上がりました。この夜は「ホテルブエナビスタ」に泊り、明日は晴れることを祈って眠りにつきました。

翌日の30日は、ホテルを8時30分にバスで出発し、「あずみの花園」で今が盛りの芍薬とジャーマンアイリスを見て、一路上高地に向かいました。天気は晴れて気温は20度、初夏の清々しい天候となり、上高地での散策に期待が膨らみました。

2匹のサルとコゲラに迎えられて11時頃に上高地帝国ホテルに到着、残雪の穂高連峰は雲が懸かっている全貌は見えませんが、風も無く暖かな天気で散策には最高の日和でした。ホテルから河童橋まで、梓川沿いを1時間程掛けて散策し、河童橋では定番の写真撮影と上高地名物で知られたチーズタルトなどを買った後、上高

地帝国ホテルで昼食を食べ、2時に上高地を後にしました。平日でしたから、河童橋銀座と言われる程の賑わいではありませんでしたが、それでも観光客で賑わっていました。

3時過ぎに松本駅に到着し、あずさ号で新宿へ帰る者、

中央西線で名古屋に行く者、長野から新幹線で新潟、いわき、埼玉へ帰る者と別れ、10月の同期会での再会を期して、今回も無事に旅行が終わりました。

2期 谷 憲昭



「薬学部入学50周年 3期同期会」報告

東京理科大学薬学部に入學して今年で50年、入學50周年の3期同期会を平成24年5月27日、長野県の上諏訪温泉で開催しました。

当初、沖縄開催を予定していましたが、入學50周年という事もあり、1年生夏の植物採集実習の思い出の地、霧ヶ峰高原に近い上諏訪温泉での開催となりました。

同期生も70歳前後になり、体調を崩したり、家族の介護等で参加出来なくなる人も多く、参加者は当初の31名から22名となりましたが、そのうち17名が当日12時30分にホテルに集合し、霧ヶ峰高原へのバスハイクを行いました。八島ヶ原湿原では湿原の木道を約30分散策し、50年前に宿泊した「ヒュッテみさやま」や「ヒュッテジャ

ベル」を見学。当時とは大きく変わった周囲の姿と50年前の実習中の出来事等を思い出し、会話が弾みました。

帰路、強清水の「霧ヶ峰自然保護センター」ではビデオ「霧ヶ峰の自然」を学生時代に戻った気分で鑑賞しました。懇親会では参加者22名全員が近況を語り、50年前のスナップ写真と当日の写真をスライドショーにまとめ、スクリーンに写される写真を見ながら、料理とお酒と思い出話で会話を弾ませ、夜の更けるのを忘れるほどの盛大な50周年同期会となりました。翌日は一部有志が諏訪湖カントリークラブでゴルフを楽しみました。

次回は2年後の2014年を予定しています。

(記：星野 孝道)



第8期生同期会（昭和42年入学の会）開催報告

平成24年10月28日（日）13:00～16:00に私学会館（アルカディア市ヶ谷）飛鳥の間で、宮戸利明、内藤（旧姓：森）美代子、金子（旧姓：吉田）令子を幹事として昭和42年入学の会が催された。前回の平成23年2月26日以来1年半ぶりで開催日が近かったこともあり出席者数は30名と少なかったが、伊佐隆幸さん、亀井慶子さん、高坂扶美子さん、宮田直子さんら久しぶりの方の出席もあり、なつかしかった。卒業後40年以上が経ち、往年の美少女、美少年達にも相応の年輪が刻まれてはいましたが、「どここの具合が悪いのよ」とか「何処何処の手術をした

のよ」とか言いながらも皆さんお元気な様子でした。そろそろ引退を考えていらっしゃる方もいて、その引き継ぎを同期の人間がしてくれることもあったりで、この会が色々な面で同期の人間の情報交換の場になっていることも感じました。そんなこともあってか、開催時期については2年毎が良いとの意見が大半を占めました。次期の42年入学の会は下川健一さん、小暮真一郎さんが幹事になり、2年後をめどに開催することにして、お開きとしました。

（文責 8期 松岡 隆）



9期同期会開催報告

昨年、平成24年8月18日（土）、飯田橋「レストランミラノ」において、9期同期会を開催いたしました。当日は暑い中、懐かしい仲間30名が参集しました。

9期同期会は、4年毎、オリンピックイヤーに開催、今回で10回目となりました。

我々の卒業は昭和47年3月、この年の8月、ミュンヘンで第20回のオリンピックが開催されました。そして、昨年の8月、第30回のロンドンオリンピックが行われ、早いもので、卒業して40年の歳月が流れました。昭和47年は今から思うと激動の年でした。オイルショック前の「行け、行け、ドン、ドン」。世の中右肩上がり、田中角栄が「日本列島改造論」を発表、7月に田中角栄内閣成立、9月には田中首相と大平外相が国交正常化に向け中国を訪問、また、沖縄施政権返還、連合赤軍浅間山荘事件、2件の日航機墜落事故など記憶に残る事件がありました。

オリンピックイヤーに同期会を開催することになった経緯は定かではありませんが、オリンピックと同じ4年のスパンが奏功したのか、同期会は現在まで存続しています。

今回は、還暦過ぎの初回の会となりました。人生80～90年とすれば、第4コーナーにさしかかったところ、健康情報が気になる世代となりました。残念なことなのですが、前回あたりから物故者も報告されるようになりました。会は物故者に対する黙祷から始まり、それぞれの近況が報告されました。現役でまだ薬局で頑張っている、定年退職後新しい職場に変わった、孫の面倒をみている、また、スポーツクラブに足しげく通っている、日本舞踊、シャンソン等が生きがいと、それぞれ人生を楽しんでいる様子がうかがえました。また、同期生の小島周二理大薬学部教授から6年制後の母校の現況についての報告もありました。学生時代にタイムスリップした2時間半の

同窓会だより

時間があっという間に過ぎ、本当に楽しいひと時を過ごしました。4年間ではありましたが多感な青年時代とともに過した仲間の縁は不思議と言うほかはありません。髪も後退し、体型も太めになりましたが、40年の年輪がそれぞれの人生に加わり、同期会もゆったりとした雰囲気

気がありました。

次回同期会開催時には現役リタイアー組も多くなり、より懐かしく楽しい同期会となる事でしょう。次回、また元気で再会することを約束し散会しました。

記：澤池 孝



平成24年度薬学部12期同期会開催報告

10月13日（土）東京理科大学理窓会倶楽部（PORTA 神楽坂）にて昨年に続き、12期同期会を開催いたしました。

昨年参加できなかった方たち、昨年に続いて参加された方たち、和気あいあいと楽しい時間をすごしました。途中、東京理科大学学長 藤嶋 昭先生が参加され、さ

らに盛り上がりました。6年制一期卒業生の国家試験合格率が100%であったことを最初に述べられたことが印象的でした。

この同期会を毎年継続し、母校の発展を一緒に見守り続けたいと思います。

記：金澤 幸江



東京理科大学学長 藤嶋 昭先生（中央）と一緒に

14期の同窓会はオリンピックイヤーに開催

ロンドンオリンピックが近づいた6月24日、下町浅草は晴天に恵まれ全国から有志55人が集合した。我々にとって50歳代最後の同窓会となる。

今回はまず全員で記念写真撮影。会食をしながらクラス別幹事が進行役となり各自の近況報告が始まり会場は熱気に包まれた。集合写真をその場でプリントし会場で全員に手渡したのは喜ばれた。その後屋外でスカイツ

リーをバックに何度も記念撮影。さらに水上バスで隅田川を下り下町情緒を味わいながら浜離宮へ。話は尽きないが再会を誓いここで一旦解散。園内散策後は夕焼けの銀座へ。今回はスナップ写真300枚をネットに掲示するなど5人の幹事も活躍。次回はリオデジャネイロ！元気で4年後も大勢の仲間に参加してほしい。

記：岩崎 修



第2回15期生の同期会を七夕の夜に開催しました

2010年6月26日に開催致しました第1回15期生同期会（昭和53年卒）は、43名の参加者が卒業以来32年ぶりに集い、若き日を思い出して大いに飲んで語るといふ大盛況の会でありました。その時に、「この同期会は2年ごとに行うべし」との取り決めが何故か強行採決の如く全会一致で決議された故に、我々幹事団としては、2年目を迎えた2012年早々から同期の皆様の期待に添うべく、日程の調整と会場探しに奔走しておりました。

2011年に神楽坂をちょっと上がった左歩道側にPORTA神楽坂（新理窓会館）が竣工し、その6階に、美味しい料理とお酒が飲めるおしゃれな談話室ができたとの噂、すかさず幹事団はそこに集合し、ここならば皆様のご期待に沿うとの判断に至りました。ということで、第2回の同期会は2012年7月7日の七夕の日、「理窓会倶楽部」に往年のおり姫星とひこ星が集結して開催の運びとなった次第です。

今回も1次会は43名（前回43名）、2次会が29名（前

回30名）、そして3次会は学生時代お世話になったあのおでんやの「せつ」、狭い店なのにそこでもなんと20名（前回21名）と、相変わらずの大盛況でした。既にお孫さんのいる方や、そろそろ還暦を迎える方もちらほらす中、まだまだバリバリの現役薬剤師として病院、また薬局で御活躍されている方々、ケアマネとして地域医療に貢献している方、製薬会社の開発や営業で益々意気揚々とリーダーシップを発揮されている方々、同期の皆さんのお話を伺うと、さすがは理科大生と、大いに誇りに思った次第です。

例年通り、15期生のホームページに同期会の写真はupしております。

<http://www.sehma.co.jp/yakugaku15/>

1次会から3次会（！）まで、大いに楽しんだ様子がじっくりご覧頂けますので是非ともお立ち寄り下さい。残念ながら出席が叶わず近況をお知らせいただいた多くの皆様には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

同窓会だより

また、今回も準備から会場予約、案内状発送、当日の司会、会計報告まで、お忙しい中集まって頂きました下記幹事団の皆様のチームワークにも自画自賛ですが感謝申し上げます。

2年後にまた元気な顔で会いましょう！ See you again !!

谷口隆雄（幹事代表）、菅原伸治、日向章太郎、長谷川富喜子、和田浩志、高橋正史（文責）



16期同期会報告

16期生（昭和54年卒業）はオリンピック開催年毎に同窓会を開催することにしております。ロンドンオリンピック開催年の昨年は、11月23日に神楽坂の日本出版クラブにて同期会を開催しました。同期生のメールリストが進み、前回より連絡事務を大幅に簡略化しましたが、今回も東は秋田から西は広島、島根まで50名の同期生が参加し、学生時代を懐かしむとともに四年ぶりの再会を祝しました。

2012年4月から同期生の牧野公子さんが東京薬学部薬

学部長に女性で初めて就任されたため、そのお祝いを行った後、変わりゆく母校の説明をしていただきました。

また、PCとプロジェクターを使用して、卒業写真や各自が持ち寄った家族、趣味、仕事、震災経験とその対策等のバラエティーに富んだ映像をみんなで見ながら、卒業研究室毎に各自近況報告や映像の説明を行いました。二次会の神楽坂の居酒屋も盛況で、三十数年前の学生時代に戻った気分で同期会を楽しみました。

（16期生 河部）



18期同期会報告

2月10日（日）に神楽坂の理窓会倶楽部談話室で18期同期会を開催しました。1981年の卒業後、初めての同期会であったため、32年ぶりの再会に会場のあちこちで歓声が上がりました。出席者数は42名で一人一人の近況報告、仕事の話などに盛り上がり、あっという間の3時間

でした。今年は薬学部同窓会の幹事学年でもあり、同窓会での再会、さらには第2回同期会での再会を期して散会となりました。2次会にも大勢が参加して楽しい一日でした。

（記：関 裕史）



放射関係研究室 第1回合同同窓会*

2012年10月6日（土）に神楽坂に新設されたPORTA神楽坂、理窓会倶楽部で標記の同窓会を行いました。1期生の黒崎前薬学部同窓会会長が始められた放射化学・放射薬品化学同窓会に放射線生命科学の卒業生にも参加して戴いた発展的な同窓会です。当日は1期生から47期生迄年齢差50歳近い28名が集い、3時間に渡り在学中の出来事、今までの人生、現在の仕事、将来の夢など楽しい歓談を行いました。今回の合同同窓会開催の目的の一つとしていた、放射関係研究室卒業生の人脈を広げることの目的は果たせたと思います（放射卒業生には厚生労働省・医薬品機構勤務者もいます）。当日次回同窓会の進め方について協議を行い、一番元気と思われた23期に幹事学年（高野氏主幹事）を受けて戴きました。既に昨年11月に、2014年開催に向けて会計の引き継ぎ、準備の打ち合わせを行っております。次回は更に多くの参加者を募りたいと思いますので23期生宜しくをお願いします。

（記：16期 田畑 新）

*放射化学（1964年4月～1990年3月）、放射薬品化学（1990年4月～2004年3月）、放射線生命科学（2004年4月～）

参加者は下記になります（敬称略）：

1期：黒崎（名誉幹事長）、2期：水庫・室（今回会計担当）、3期：野々村・木村、4期：今井・柴田（今回主幹事）・西村・大内・山浦、6期：中田（写真担当）、7期：姫野・古舘、11期：阿形・岡宮、12期：斎藤、16期：小川原・田畑新（今回幹事）・田畑祐子、23期（次回幹事学年）：金村・小泉、近藤・齊田・高野、32期：佐々木、42期：大島、46期：高井、47期：矢納



星野 修 先生 喜寿のお祝い会のご報告

平成24年7月14日(土)～15日(日)に、福島県福島市飯坂温泉のホテル聚楽において、薬化学研究室の恩師星野 修 先生の喜寿のお祝い会を開催し、盛会のうちに終えることができましたことをご報告いたします。

平成24年7月に星野先生が喜寿を迎えられることから、前年より8名の発起人とともに会の準備を開始しました。発起人の皆さんから、東日本大震災後の福島を応援しようとのご提案をいただき、福島県での一泊二日でのお祝い会の開催となりました。首都圏での開催ではないため、参加者が集まるかどうか不安ではございましたが、爽やかな天候のもと、全国より総勢34名の薬化学研究室内の卒業生(上は3期から下は39期まで)及び元教員の皆様にご参加いただき、その不安は杞憂に終わりました。

当日は、薬化学研究室同窓会恒例のミニシンポジウムから始まりました。「東日本大震災」をテーマとし、私から福島での被災体験、13期の高橋 俊博 様より南相馬市での環境放射能の測定活動、原 博 先生より陸前高田市での東京都薬剤師会の支援活動についてご発表いただき、それぞれ活発な意見交換がなされました。

温泉を楽しんだ後は、いよいよ祝宴の始まりです。原

先生の乾杯のご発声に始まり、福島の郷土料理を楽しみながらの和気あいあいとした雰囲気での宴は、2次会、3次会と時間を忘れて夜遅くまで続きました。皆様、懐かしい話に花を咲かせるとともに、世代を超えた交流を深めることができました。また、事前に卒業生の皆様からお送りいただいたお祝いのメッセージカードを貼ったアルバムを、喜寿のお祝いの品として先生にお贈りいたしました。カードを1枚1枚ご覧になっていた星野先生の笑顔が印象的でした。ご都合がつかずご参加できなかった卒業生の皆様からも、温かいメッセージが綴られたカードをたくさんお送りいただき、アルバムの台紙を急ぎょ追加購入するほどになりました。卒業生の皆様の絆の強さも先生にお伝えすることができたのではないかと思います。

お祝い会の開催にあたり、会に携わった全ての皆様に、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。星野先生におかれましては、どうぞこれからもますますお体を大切になさって、若々しいお気持ちのまま長寿を重ねられますよう、同窓生一同、心からお祈り申し上げます。

33期 水野 雄介



星野修先生喜寿のお祝い会 平成24年7月14日
於 飯坂温泉 ホテル聚楽

集合写真並び順 (敬称略)

- | | | | | | | | | | |
|-------------|-------------|---------------|-------------|-------------|-------------|-------------|---------------|-------------|-------------|
| 29期
中村 洋 | 29期
山田浩平 | 19期
大山久美子 | 18期
大山邦之 | 18期
白井隆一 | 29期
森園大輔 | 24期
丸本光洋 | 1988院
廣川明久 | 39期
水間聡子 | 39期
正本美奈 |
| | 14期
大谷 実 | 20期
小松俊哉 | 16期
依田 司 | 8期
岩崎正幸 | 8期
阿崎徳二 | 25期
田崎慎一 | 21期
西村知子 | | |
| 13期
高橋俊博 | 18期
山岸正文 | 11期
関根康雄 | 11期
島村直己 | 11期
小川正志 | 21期
中村裕子 | 13期
堀江淳子 | 19期
安福一恵 | | |
| 石崎 幸
先生 | 33期
水野雄介 | 1984院
高橋敦男 | 星野 修
先生 | 原 博
先生 | 3期
澤木正平 | 10期
岡崎資子 | | | |

剣道部50周年記念及び、 齊藤泰二師範の米寿を祝う会の報告

日時：平成24年11月10日(土)

場所：日本出版クラブ会館

来賓：池北理事長代理、齊藤名誉師範

1960年に生まれた剣道同好会は、体育会等の推薦を受け1962年10月に剣道部となり、多難の50年が過ぎました。

創部して50周年に当たり「剣道部50周年祝賀会と齊藤師範の米寿を祝う会」が春木OB会長の音頭で、昨年の11月10日に、開催された。

出席は1960年卒から2013年現役に至る、同窓及び現役が集合し、話題豊富な剣道談義、理科大特有の落第・追試験談義と、久しぶりに学生気分となり、参加150名が大いに盛り上がった。

さて、警視庁剣道師範の齊藤先生は、創部当初から、

よちよち歩きの理科大剣道部を指導し、数年後には理科系単科大学では稀有と言われる「全国大会出場」まで育成されました。その先生が米寿を迎えられるに当たり、共に皆でお祝いをしました。

剣道部の創設当時は薬学部の日比野、木下、高美の3強豪が指導と部育成に努め、薬学科剣道部でしたが、今は神楽、野田、久喜の各地区と分かれ、薬学部の影は薄くなりましたが、師範、監督も充実した部になっております。

当日は、池北理事長代理、山中師範、小沢顧問、橋本前顧問、天沼、入江前監督の来賓も迎え、次回100周年の祝賀会までの健康と発展を祈念して散会しました。

(文責：日比野)



平成24年度同窓会通常総会および講演会について

平成24年7月28日（土）午後、東京・飯田橋にあるインテリジェントロビー・ルコにおいて、平成24年度通常総会が開催されました。総会担当は第17期が務め司会の青山隆夫氏の開会宣言、石井甲一会長の挨拶があり、次いで田畑新氏（16期）が議長に、青山隆夫氏（17期）および小林寧氏（26期）が議事録署名人に指名され、事務局の冨塚朋子氏（16期）が議事録作成を担当し、議題に従って議事が進行されました。

主な議題は次の通りで、いずれの議題も原案の通り承認されました。

第一号議案 平成23年度事業報告

1. 同窓会会報「ふなかわら」第23号の発行
平成23年6月
2. 平成23年度実践社会薬学講座の開催
平成23年4月16日～6月4日
(毎週土曜日7日間)
3. 同窓会通常総会の開催 平成23年7月30日
インテリジェントロビー・ルコ
特別講演会
「鑑定を目的とした分析法の開発」
～理大薬出身者として～
講演者：科学警察研究所 法科学第三部
化学第一研究室 主任研究官
岩田 祐子 先生 (28期)

懇親会

4. 地区交流会
日本薬剤師会学術大会（仙台）で交流会開催を予定しておりましたが、東日本大震災の為、中止と致しました。
5. 平成23年度薬学講座を東京理科大学薬学部と共催
平成23年10月15日
6. 新会員勧誘 郵送にて資料を264名に送付
平成24年1月18日
平成24年3月卒業者（49期）42名、大学院修了者4名が会費納入
7. 卒業記念謝恩会へ祝金を贈呈
平成24年3月18日
8. 卒業生・修了生全員（288名）に卒業・修了記念品（記念スパーテル）を贈呈
平成24年3月18日
9. 同期会開催（12期）に際し、祝金3万円を贈呈
10. 2010年度版名簿の販売
11. 薬科大学・薬学部同窓会協議会は欠席
12. ホームページのメンテナンス
13. 幹事会の開催（4回）
平成23年4月9日、7月30日、10月22日
平成24年2月4日
14. 役員会の開催
平成23年6月28日、10月4日

第二号議案 平成23年度決算報告及び監査報告

平成23年度会計報告				
東京理科大学薬学部同窓会				
平成23年4月1日～平成24年3月31日				
収入の内訳		支出の内訳		
内訳	金額	内訳	金額	摘要
同窓会費	2,562,000	人件費	513,850	アルバイト代
名簿購入代	35,000	通信費	12,685	インターネット
名簿奨励金など	10,000	雑案内状印刷送付費	882,981	ふなかわら印刷送付(寄席印刷)
種金利息	2,443	郵便代(宅配代も含む)	49,750	郵便代・宅配代
協会懇親会参加費	180,000	講演会謝金	50,000	講師謝金
地区交流会懇親会参加費	0	総会経費	77,345	会場費
寄付金	10,000	協会懇親会費	194,160	
		薬科社会薬学講座謝金	50,000	図書費2000円×25名
		実践社会薬学情報交換会費	80,000	
		卒業生奨励金	100,000	
		卒業生記念品代	189,300	記念スパーテル300本
		印刷費	29,824	事務用紙 お中元・お歳暮
		同窓会協賛金	30,000	12期
		地区交流会懇親会費	0	
		会費未収金(前年度)	0	
		役員・事務経費	42,592	
		ホームページ維持費	80,000	
		雑費	84,000	協会連絡会費、名簿代など
		預金へ繰り入れ	249,456	
合計	2,799,143	合計	2,799,143	

資産内訳	
銀行振替口座	1,425,000
定期預金	4,525,286
普通預貯金	9,484,317
普通預貯金(名簿用)	1,987,841
現金	153,721
計	17,586,165

平成24年7月7日
会計 岡宮 彰子

監査報告
会計報告の各事項を表裏し、その収支ともに正確であることを認めます。
平成24年7月7日
会計監査 高井 幸恵
藤本 紀子

第三号議案 平成24年度事業計画案

1. 同窓会会報「ふなかわら」第24号発行
平成24年6月
 2. 平成24年度実践社会薬学講座
平成24年4月14日～6月2日
(毎週土曜日7日間)
 3. 同窓会通常総会の開催
平成24年7月28日
インテリジェントロビー・ルコ
特別講演会
「ジェネリック医薬品と医療安全」
～横浜市大病院の導入事例を踏まえて～
講演者：
公立大学法人横浜市立大学附属病院薬剤部
小池 博文 先生 (32期)
- 懇親会
4. 地区交流会の開催 平成24年10月7日

第四号議案 平成24年度予算案

- 日本薬剤師会学術大会（浜松）で交流会開催
- 5. 平成24年度薬学講座を東京理科大学薬学部と共催
平成24年10月20日
- 6. 新会員勧誘 郵送にて資料を送付
平成25年 1月
- 7. 卒業記念謝恩会へ祝金を贈呈
平成25年 3月
- 8. 卒業生・修了生全員に卒業・修了記念品（記念スパー
テル）を贈呈 平成25年 3月
- 9. 同期会開催に際し、祝金3万円を贈呈
- 10. 2010年度版名簿の販売
- 11. 薬科大学・薬学部同窓会協議会への協力
- 12. ホームページのメンテナンス
- 13. 会則の改定
- 14. 幹事会の開催（平成24年4月7日、7月28日開催
平成24年10月、平成25年1月を予定）
- 15. 役員会の開催（平成24年7月4日）

平成24年度収支予算			
東京理科大学薬学部同窓会			
平成24年4月1日～平成25年3月31日			
収入の部		支出の部	
内訳	金額	内訳	金額
同窓会費	2,800,000	人件費	800,000
総会懇親会参加費	200,000	通信費(さくらインターネット)	13,000
地区交流会懇親会参加費	200,000	印刷発送費	1,007,000
名簿購入代	35,000	郵便代(宅配代も含む)	50,000
寄付金など	12,000	講演会謝金	50,000
預金利息	3,000	総会経費	70,000
		総会懇親会費	200,000
		実践社会薬学講師謝礼	50,000
		実践社会薬学情報交換会費	80,000
		卒業謝恩会祝金	100,000
		卒業記念品代	220,000
		交際費	30,000
		同期会協賛金(6期分)	180,000
		地区交流会懇親会費	200,000
		全国薬科大学薬学部同窓会協議会費	50,000
		文具・事務経費	40,000
		ホームページ維持費	60,000
		予備費	50,000
合計	3,250,000	合計	3,250,000

以上の議案審議終了後、青山氏より閉会宣言がされました。続いて、第二部の特別講演では、本会32期の小池博文先生（公立大学法人横浜市立大学附属病院薬剤部）より、「ジェネリック医薬品と医療安全－横浜市大病院の導入事例を踏まえて－」という演題でご講演いただきました。内容は、小池先生が勤務されている横浜市立大学附属病院における事例から、①ジェネリック医薬品の導入の考え方、②医療安全への貢献、③利便性の高いジェネリック医薬品についてのお話であり、122枚のスライドを用いて熱く講演されました。ジェネリック医薬品は

医療経済的なものを追及する考え方が一般的ですが、特に医療安全と付加価値に焦点をあてた考え方は、我々、医療と製薬に関与している現役同窓生にとってもとても新鮮で、目から鱗が落ちるようでした。質問も数多くあり、薬事行政や薬剤師会の大物OBからは、現在、ジェネリック医薬品の普及が進まない現状を打開するためにも、全国の病院・薬局薬剤師に小池先生の講演をしていただきたいとのお願いがありました。そのくらい興味深いお話を聞くことができたと思います。



「同窓会名簿作成の外部業者への委託について」のお知らせ

前回の同窓会名簿は3年前の2010年末に発行しましたが、そろそろ次回（2015年版）の作成準備に取り掛かる時期となりました（なお、2010年度版は現在も販売中です）。

名簿作成には同窓会内で名簿委員会を組織し、細かな作業はありますが概ね次のような作業を行います。①調査はがきの原稿作成 ②印刷会社から全会員（全卒業生）へ調査はがきの郵送 ③同窓会に返送された調査はがきの住所と同窓会で保有している住所データとの照合及び修正（ダブルチェック）④名簿の作成及び購入希望者への郵送 ⑤名簿申込者の入金確認及び未振込者への催促

時を同じくして、昨年末に(株)サラトという同窓会活動のコンサルタント会社から同窓会名簿作成、発行の提案を受けました。

提案内容は名簿作成に関わる作業全て、且つ原則的に同窓会からの経費負担はゼロという内容でした。因みに2010年度版（CD-ROM版）は60万円強の赤字です。

同窓会にとっては、余りにも美味しい話なので、実態確認の意味合いで同社と契約を交わして東京の薬科大学3校の同窓会事務局にお話を伺いました。その結果、一番の心配事の個人情報保護の取り組みが適切に行われ、いずれの学校でも名簿発行でのトラブルは一切無かったとの事でありました。

この調査結果、(株)サラトによる幹事会での詳細説明および幹事会での議論を重ねて、同窓会として(株)サラトと2015年度版の同窓会名簿の作成、発行の契約をすることとしました。

(株)サラトとの契約に則って皆様のお手元に、(株)サラトから調査はがきが2015年1月頃お手元に届く予定です。皆様のご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

(株)サラトのホームページは「<http://www.salat.co.jp/>」ですが、Googleで「サラト」で検索すると、検索結果のトップにホームページが表示されます。ここには同窓会名簿作成及び会員データ管理等について、同社の業務内容が詳しく紹介されております。

2010年度版薬学部同窓会会員名簿のお知らせ

現在2010年度版薬学部同窓会会員名簿（CD-ROM版）を発売しております。

名簿 終身会員・年会費納入者 頒価 3,000円

年会費未納者 頒価 5,000円

購入ご希望の方は、会費納入と同様に同封の郵便局振り替え用紙をご利用ください。また、年会費未納の方で、年会費納入と名簿購入を同時に希望していただける場合は、名簿は3,000円になります。よろしくお願い致します。

薬学部同窓会は同窓生の会費で運営されています

薬学部同窓会の皆様、日頃より同窓会にご協力戴きありがとうございます。

また、本年も昨年に引き続き会費納入本当にありがとうございました。同窓会幹事一同心からお礼申し上げます。

そして、本年度から新たな同窓生となりました平成25年3月卒業生50期、修了の皆様、ならびにご父兄の皆様からも本同窓会運営に賛同を得ることができましたことを本当にうれしく思っております。東京理科大学薬学部同窓会は同窓生から戴いた会費により運営されております。

今後とも、ご支援、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

平成25年度会費納入のお願い

平成24年度に引き続き、平成25年度会費納入をお願いいたします。

各会員の会費納入状況は、ふなかわら送付時の宛名の下部に記載してありますのでご確認ください。なお、会

費納入の際には、同封の郵便局振り替え用紙をご利用ください。会費は年会費2,000円(何年分でも納入できます)、終身会員50,000円です。ご寄付も受け付けておりますのでよろしくようお願い申し上げます。

(終身・∞)

終身にわたり会費を納入済みの正会員の方：終身会員の方は、納入年度にかかわらず、ふなかわらにお名前を記載させていただきます。

(平成××年度まで済み)

平成××年度まで会費納入済みの正会員の方：会費納入年度のふなかわらにてお名前を記載させていただきます。

(平成25年度・お願い)

平成25年度会費 未納の会員の方：よろしくお願い致します。

平成24年度 会費納入額詳細 (平成25年3月31日現在)

	年会費納入		終身会費納入		寄 付 金		合計金額
	金 額	人 数	金 額	人 数	金 額	人 数	
平成24年度卒業・修了者	54,000	3	1,620,000	54	0	0	1,674,000
既 卒 者	294,000	48	450,000	9	26,000	2	770,000
合 計	348,000	51	2,070,000	63	26,000	2	2,444,000

薬学部同窓会会員数 (平成25年3月31日現在)

	会員登録数	終身会員	年会費会員
卒 業 生	8,894名	1,834名	938名
大学院修了生	210名	17名	7名
合 計	9,104名	1,851名	945名

氏名・住所・異動等変更届

東京理科大学薬学部同窓会宛

記入 年 月 日

下記の変更をお知らせします。

氏名	フリガナ			旧姓	フリガナ		
	漢字	姓	名		漢字	姓	名
卒業・修了	薬学部（薬学科・製薬学科） 期 年卒 (卒・研究室)			大学院（修士・博士） 年修了 (院・研究室)			
住所	旧住所	(〒 -) 都 道 府 県					
	現住所	(〒 -) 都 道 府 県					
		TEL.	FAX.				
	Eメールアドレス @						
勤務先	フリガナ	名称					
	所在地	(〒 -) 都 道 府 県					
		TEL.	FAX.				
	Eメールアドレス @						
その他 連絡事項							

切り取り線

個人情報 は 東京理科大学薬学部同窓会の規定に従い管理致します。

【事務所・連絡先】 東京理科大学薬学部同窓会 事務局

〒278-8510 千葉県野田市山崎2641 東京理科大学薬学部内

FAX : 04-7121-4531

E-mail : jimuridaiyakudo.gr.jp

【ホームページ】 <http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>

東京理科大学薬学部同窓会へのお問合せ

【事務所・連絡先】

東京理科大学薬学部 同窓会事務局
〒278-8510 千葉県野田市山崎2641 東京理科大学薬学部内16号館1F
FAX：04-7121-4531
E-mail：jimu@ridaiyakudo.gr.jp

【ホームページ】

<http://www.ridaiyakudo.gr.jp/>
行事などに関するご案内など掲載しておりますので是非、アクセスしてみてください。

編集後記

自民党が民主党から政権を奪い取り約半年が経過し、安倍政権によるデフレ脱却を目指すアベノミックス及び日銀のインフレ目標2%により、株価はリーマンショックの前の水準を回復し、為替も100円台を突破しました。これに伴い、輸出企業を中心に利益がV字に回復し、国内全般で明るいニュースが多く聞かれるようになりました。一方、円安に伴う輸入エネルギーの高騰による電気料金が上昇しています。産業界からは、今までの円安による海外移転ではなく、電気料金の高騰による海外移転が一部で囁かれております。

東日本大震災及びこれに伴う福島原発事故から2年数ヶ月が過ぎ、これらの悲しい災害が少しずつ風化しているように感じられますが、復興復旧の明るいニュースも多く聞かれるようになりました。

しかし、産業の米のひとつである電気料金の上昇を阻止するため、安全性の確保を少し横に押しやり原発の再稼働の議論があることは少々残念に思えます。バブル及びミニバブルの破綻の教訓を忘れず、子孫により良い日本、地球を残せるように、満腹感を求めるのではなく、腹八分目を旨として一人ひとり考え行動すべきと思います。

平成25年度 幹事一覧

小原 侃 (1)	岡宮 智子 (11)	渡部 敏行 (16)	内村 兼一 (30)
黒崎 浩己 (1)	富秋 英志 (11)	青山 隆夫 (17)	山本 香織 (30)
山口 堅志郎 (1)	向井 呈一 (11)	大山 邦之 (18)	水 八寿裕 (30)
生田 安喜良 (2)	飯島 康典 (12)	関 裕史 (18)	高橋 未明 (31)
鈴木 政雄 (3)	金澤 幸江 (12)	渡辺 宏二 (18)	中川 瑞穂 (31)
中村 洋司 (3)	犬飼 陽子 (12)	小嶋 知夫 (19)	佐々木 正大 (32)
池田 幸雄 (4)	田端 敬一 (12)	小松 俊哉 (20)	小島 昌徳 (34)
柏木 敬子 (4)	伊藤 充朗 (13)	飯野 直子 (21)	野村 香織 (34)
山川 洋志 (5)	小高 賢一 (13)	吉田 雅人 (21)	松井 洋子 (34)
山田 高照 (5)	濱野 朋子 (13)	安藤 秀一 (22)	金井 亮介 (37)
湯田 康勝 (5)	波田野佐和子 (13)	磯部 総一郎 (22)	浅井 将 (37)
植木 清一郎 (6)	伊藤 昭子 (13)	小川 政彦 (22)	遠藤 咲智子 (39)
藤井 幸子 (6)	石井 文由 (14)	粕田 みどり (22)	金枝 有香 (40)
石井 賢二 (7)	岩崎 修 (14)	永井 健二 (22)	澤井 美里 (40)
寺山 博行 (7)	林 譲 (14)	高井 幸恵 (22)	高橋 智至 (40)
松岡 隆 (8)	畑中 典子 (14)	和田 和裕 (22)	今関 友佳 (43)
奥村 成太 (8)	菅原 伸治 (15)	上村 直樹 (23)	杉野 由香里 (43)
武尾 勝司 (9)	日向 章太郎 (15)	伊集院 一成 (25)	永井 弓子 (43)
中島 敏夫 (10)	和田 浩志 (15)	小林 寧 (26)	森脇 恵子 (43)
原 しげ子 (10)	遠藤 健治 (16)	関根 靖之 (26)	松本 洋典 (43)
石井 啓子 (10)	関口 真紀子 (16)	若松 正克 (26)	石坂 隆史 (大学院)
安達 順一 (11)	田畑 新 (16)	前田 真 (27)	
石井 甲一 (11)	武田 直子 (16)	大瀧 充 (29)	
小暮 渉 (11)	今 和枝 (16)	神谷 貞浩 (29)	

2013年4月 東京理科大学 葛飾キャンパス開設

平成25年葛飾キャンパス（常磐線金町駅）が完成し、見学会があり、4月からは工学部・理学部・基礎工学部の一部が開校となりました。



ホール正面 図書館



メイン通り 学生ホール（左手前）、研究棟（右）



研究棟（左奥） 正面玄関、講義棟（手前）



学生ホール・食堂

葛飾キャンパス オブジェ



考える人



わだつみのいろこの宮